

島根県立水泳プール

—— これまでのあゆみ

島根県立水泳プールは昭和57年に開催された「島根くにびき国体」夏季大会の主会場として、昭和54年に松江市西川津町に建設された。

当時は西日本の公営プールとしてはトップレベルのプールとしてオープンした。

その後平成15年、翌年の平成16年に開催された全国高校総合体育大会(04総体)の水泳(競泳)競技の主会場として、また、「水泳を通じてスポーツの振興を図り、もって県民の心身の健全な発達に寄与すること」を目的として、新たに松江市上乃木に移転新築された。施設は屋外50mプール(50m×25m10レーン水深2.0~2.1m)、

屋内25mプール(25m×23m8レーン水深1.4~1.6m)飛込プール(25m×22m水深3.5m~5.0m)幼児用プール(遊具1台キッズスライダー1台水深0.5~0.7m)トレーニングルーム、会議室を備え、各種水泳大会はもとより、さまざまなイベント等を開催している。

特に夏季シーズン(7・8月)には、幼児用プールを中心に多くの県民の皆様にご利用いただき、年間10万人を超える利用者がある。

平成16年の全国高校総合体育大会では、全国から1,571人の選手が参加し、本県からは7校14人の選手が参加した。大会では10の大会新記録(男子5種目、女子4種目)など多くの好記録が生まれ、成功裏に大会を終えることができた。その後も中国四国大学水泳選手権大



10月スポーツ推進月間 カヌー体験



50mプール



25mプール



飛込プール

会、中国高等学校水泳選手権大会、中国中学校水泳競技大会、島根県選手権などの大会が開催され、今日まで水泳の競技会場として大きな役割を果たしてきた。また、飛込プールを練習拠点として活動しているクラブからは、令和3年の第97回日本選手権大会男子3m板飛込で優勝し、令和5年の福岡世界選手権に出場した須山晴貴選手（松江市出身）をはじめとして、全国で活躍する選手を数多く輩出してきている。

—— 現在の状況

プール建設から20年以上経過し、施設は随所で老朽化が進んでいる。小規模な修繕を行いながら、現在は場長以下スタッフ8人で管理運営を行っている。現在でも各種水泳大会の開催はもとより、利用者ニーズに対応したサービスの提供、安心・安全に利用していただける環境の整備、生涯スポーツ社会の実現や競技力向上に向けた各種スポーツ教室、「10月スポーツ推進月間」、施設の特性を生かした各種イベントの実施など多くの事業を展開している。

令和2年には新型コロナウイルス感染症の発生により、感染防止対策として約1か月間の休場やプール、トレーニングルームの人数制限を余儀なくされたため、大幅な利用者数の減少につながった。現在は年間利用者数の回復に向けて、施設の管理運営に取り組んでいる。



トレーニングルーム

—— これから

2030年島根県で開催される「島根かみあり国スポ・全スポ」の水泳（競泳、飛込、アーティスティックスイミング）競技の開催施設に予定されている。

「島根かみあり国スポ」で活躍できるジュニア選手の育成・強化を図るため、いち早く競技スポーツに触れる機会を提供するための幼児を対象としたキッズスイムや、小学生を対象としたジュニアスイムなどの教室を引き続き展開していく。

また、今後さらにもう一段階レベルを上げた強化育成クラスを開設することで、強化育成クラスの選手と競技団体とが連携した合宿等の強化事業を実施し、選手や指導者の意識の高揚を図るとともに、施設としても「島根かみあり国スポ・全スポ」を積極的にPRしていく。

今後も島根県立体育施設の役割である、「スポーツの振興を図り、もって県民の心身の健全な発達に寄与すること」を目的とした施設として、県民の皆様が生涯にわたりスポーツに親しみ、スポーツを通して豊かなライフスタイルを送ることができる事業を展開していく。



キッズスイム教室